

# 迎春



「人の心が和むまち」

稲美町長

古谷博

明けましておめでとうございます。

皆様におかれましては、ご家族おそろいで健やかに令和最初の新春をお迎えのこととお喜び申し上げます。「時に初春の令月にして 氣淑く風和ぐ 梅は鏡前の粉を開き 蘭は珮後の香を薫す」

今年の4月に発表された新元号「令和」の典拠となった万葉集の歌であります。この歌碑が30年前からいなみ野万葉の森にあったことから、稲美町は「万葉集ゆかりのまち」、「令和ゆかりのまち」として、大いに賑わいを見せました。今年の町民カレンダーでは、いなみ野万葉の森の歌碑を紹介しております。また、この秋の町制施行65周年記念式典においては、「令和」の考案者とされる国文学者中西進氏にご講演をいただく予定となっております。これを機に、令和や印南野が詠まれた歌を稲美町の紹介の一助とするなど、話題だけにとどまらず文化として根付いていけばと願っております。

さて、昨年を振り返ってみますと、稲美町においては、すべての幼稚園・小中学校の教室にエアコンを設置し、教育環境の充実を図りました。また、令和4年度からの稼働に向け、高砂市において広域ごみ処理施設の建設工事が開始されました。この施設では搬入できるごみの量が決められているため、皆様にはより一層のごみ減量へのご理解とご協力をお願い申し上げます。

今年、子育て世代と高齢者等の多世代が交流できる複合施設として、いなみ野水辺の里公園の隣接地に子育て支援拠点施設の建設を行います。

土地利用については、菊徳地区の宅地化を図るため土地区画整理組合の設立認可を目指します。また、母里地区北部で工業用地の確保に向け土地利用基本計画の策定に取り組みます。

今後も、住民の皆様とスクラムを組み、先人達から受け継いだ美しい田園風景と新たに取り組むまちづくりとの調和を図ることで、「人の心が和む稲美町」を目指して誠心誠意、努力してまいりますので、本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが、住民の皆様にとりまして、健康で明るく幸せな一年となりますよう心からお祈り申し上げます。新年のごあいさつといたします。



「令和にふさわしいまちづくり」

稲美町議会議長

山口 守

あけましておめでとうございます。皆様にはご家族おそろいで新しい年をお迎えのことと、心よりお喜び申し上げます。旧年中は稲美町議会に温かいご理解とご支援を賜りましたこと、議会を代表しまして厚くお礼申し上げます。

昨年は、台風19号をはじめ全国各地で大きな災害がありました。関係者の皆様には心よりお見舞い申し上げます。その一方で、ラグビーワールドカップが日本で開催され、日本チームの大活躍は大きな感動を国民に与えてくれました。また、大会運営や観客マナー、そして住民の方々や各国の選手や観客との温かな交流が、全世界に爽やかな反響を巻き起こしました。本年開催される東京オリンピック・ピックにも期待が高まります。

さて、「令和」になり、初めての正月です。その典拠は万葉集、奈良時代初期の大宰府長官大伴旅人が、正月に仲間を館に招いての歌会の序文であると言われています。

「時に初春の令月にして 氣淑く風和ぐ 梅は鏡前の粉を開き 蘭は珮後の香を薫す」

まさに、新年を寿ぐにふさわしい文ではないでしょうか。また、万葉の森に「令和」の歌碑が設置されており、「令和の町」として一躍注目を浴びたのは、皆様もご存知かと思えます。

稲美町議会におきましても、この「令和」に込められた、豊かで穏やかな自然にふれあい、住民同士が親しみ合うような町を目指してまいります。

そのために、昨年から取り組んでいる住民の皆様との意見交換会を今後も進めてまいります。また、議員同士の議論もより活発に行い、行政のチェック並びに住民福祉の向上のための政策提言を進めてまいります。それらの議会活動の中で、平成26年に制定した議会基本条例についても、実態に即しているか、実効性があるかなど、検証作業を進めてまいります。

これからも住民の皆様と共に歩む議会を目指してまいりますので、皆様の一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

最後に、皆様のご健康、ご多幸をご祈念申し上げます。新年のごあいさつといたします。